

全国児童養護施設調査2011

社会的自立に向けた支援に関する調査

調査実施者： 特定非営利活動法人ブリッジフォースマイル

調査協力者： 特定非営利活動法人Living In Peace

調査対象施設： 全国の児童養護施設583施設

調査時期： 2011年6月10日～7月14日

調査方法： 郵送調査法

有効回答数： 135施設(有効回収率23.16%)

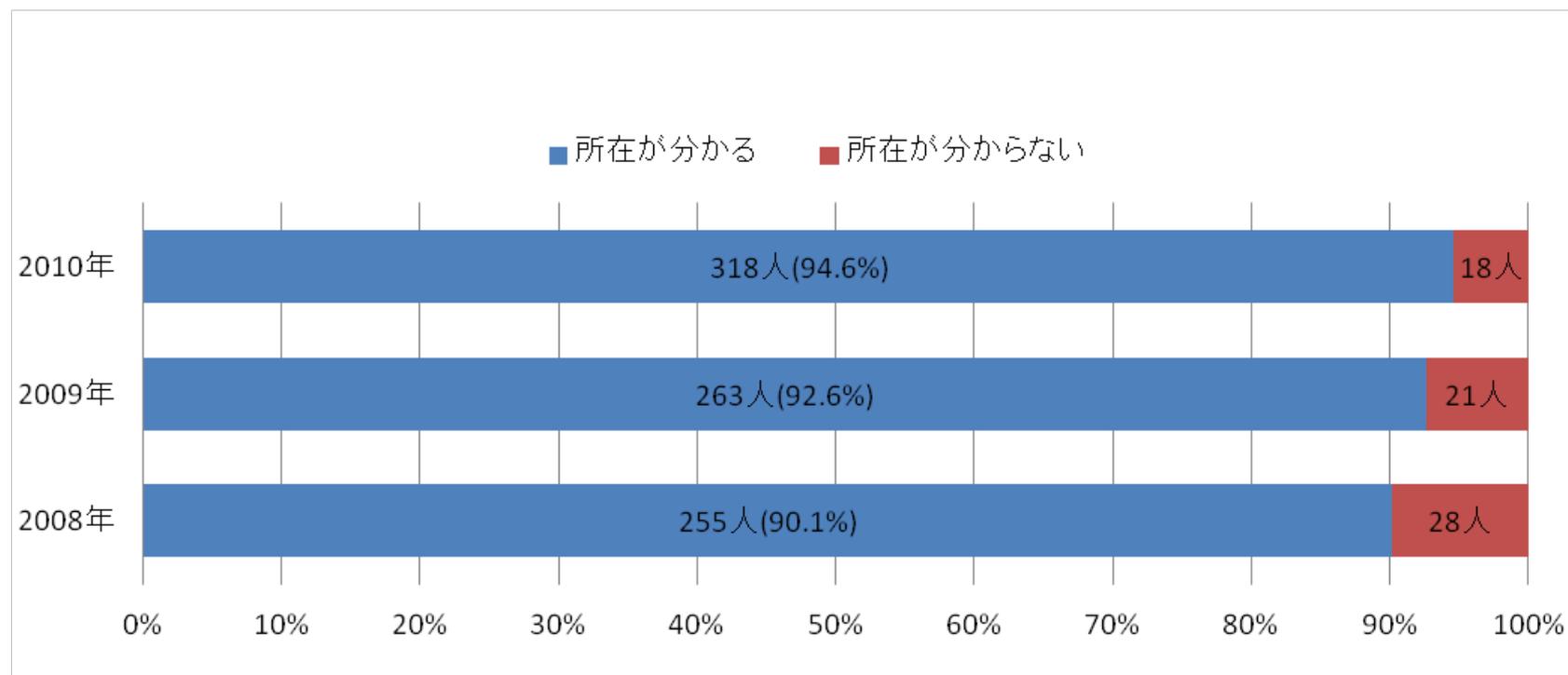
1、都道府県別 施設回答率 (上位25位)

	管轄	総施設数	回答施設	回答率
1	香川	3	2	66.7%
2	新潟	5	3	60.0%
3	沖縄	8	4	50.0%
4	佐賀	6	3	50.0%
5	長崎	11	5	45.5%
6	静岡	12	5	41.7%
7	宮城	5	2	40.0%
8	山形	5	2	40.0%
9	愛知	33	12	36.4%
10	三重	11	4	36.4%
11	大分	9	3	33.3%
12	富山	3	1	33.3%
13	広島	12	4	33.3%

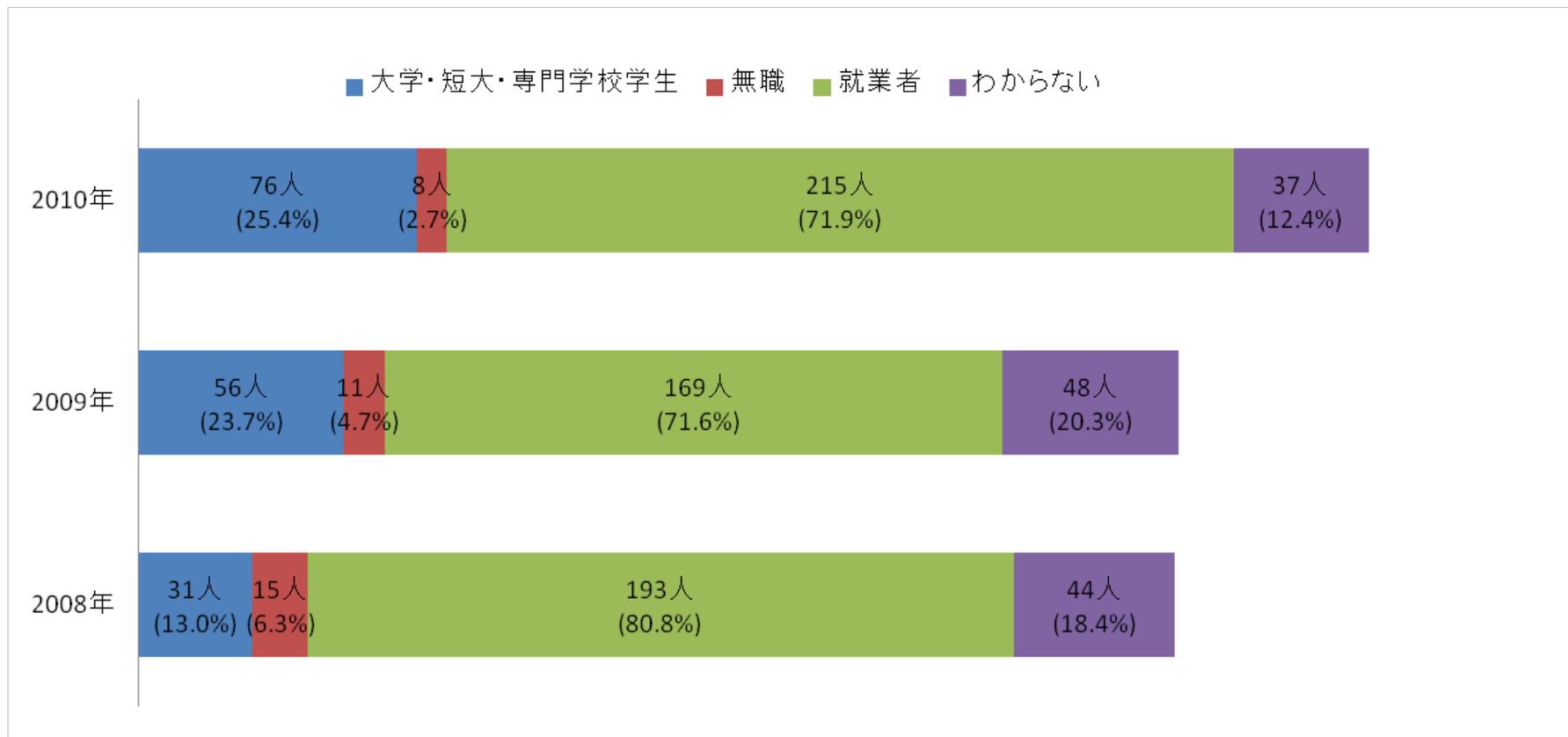
	管轄	総施設数	回答施設	回答率
14	愛媛	10	3	30.0%
15	栃木	10	3	30.0%
16	東京	57	17	29.8%
17	千葉	17	5	29.4%
18	徳島	7	2	28.6%
19	長野	15	4	26.7%
20	北海道	23	6	26.1%
21	秋田	4	1	25.0%
22	石川	8	2	25.0%
23	滋賀	4	1	25.0%
24	和歌山	8	2	25.0%
25	神奈川	29	6	20.7%
	全国	583	135	23.2%

2、退所者人数と所在把握状況

	2008年度	2009年度	2010年度
退所者数	283	284	336



3、所在のわかる退所者属性

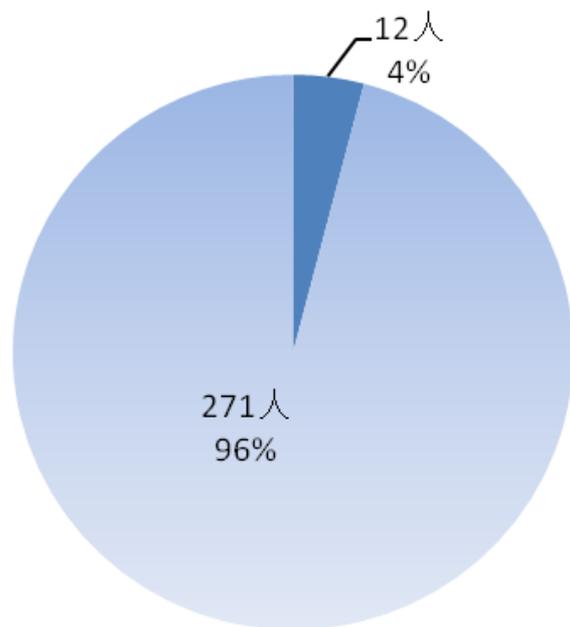


	2008年度	2009年度	2010年度
(b)大学・短大・専門学校学生	31	56	76
(c)無職	15	11	8
(d)就業者	193	169	215
(e)わからない	6	10	5

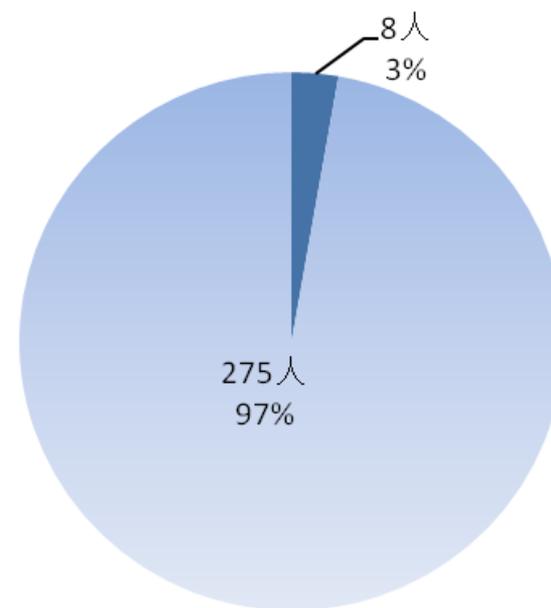
4、所在のわかる退所者の結婚、出産状況

(2008年3月退所者)

◆結婚している

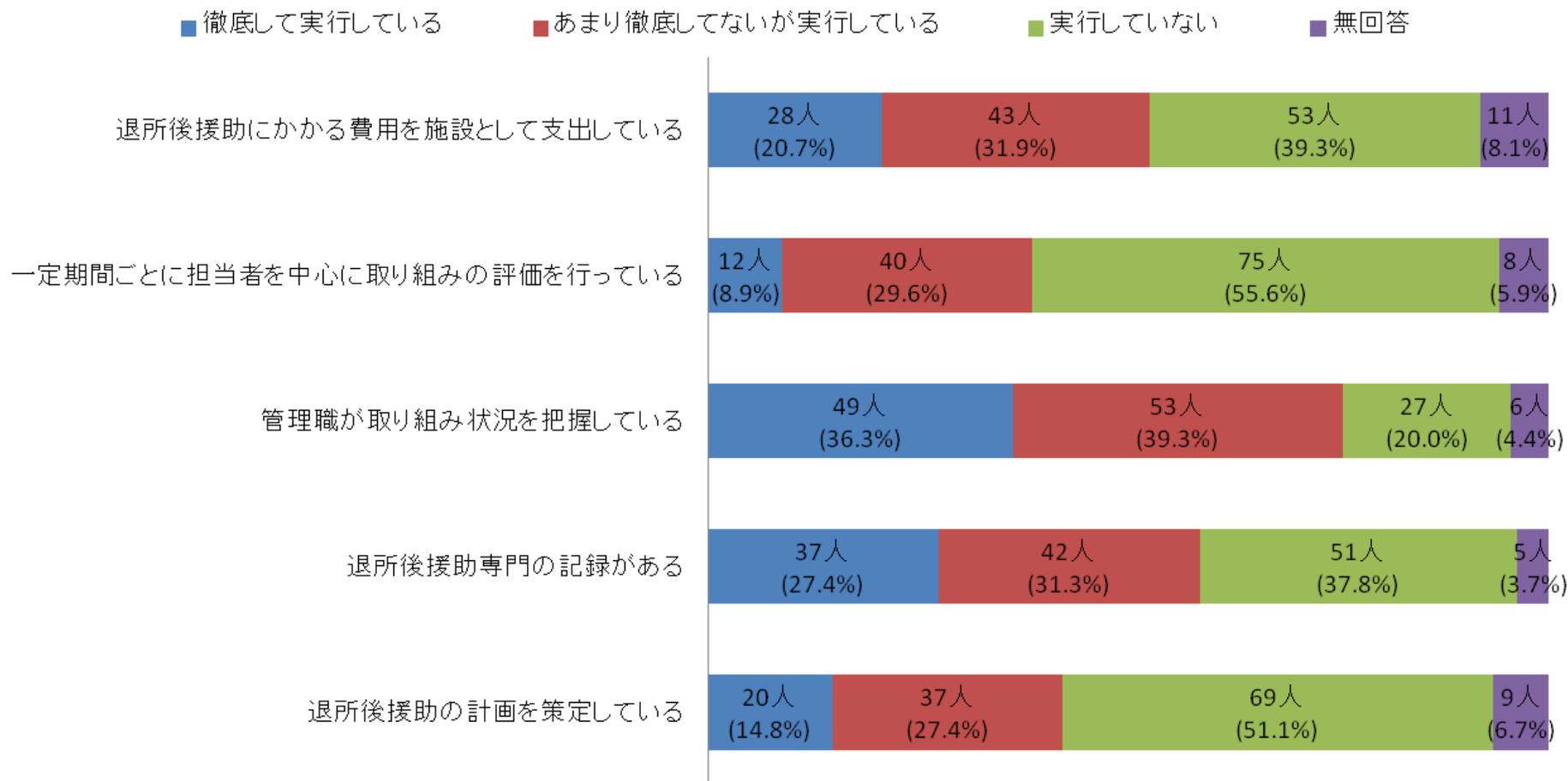


◆子どもがいる



	2008年度	2009年度	2010年度
(i)結婚している	12	3	1
(j)子どもがいる	8	3	1

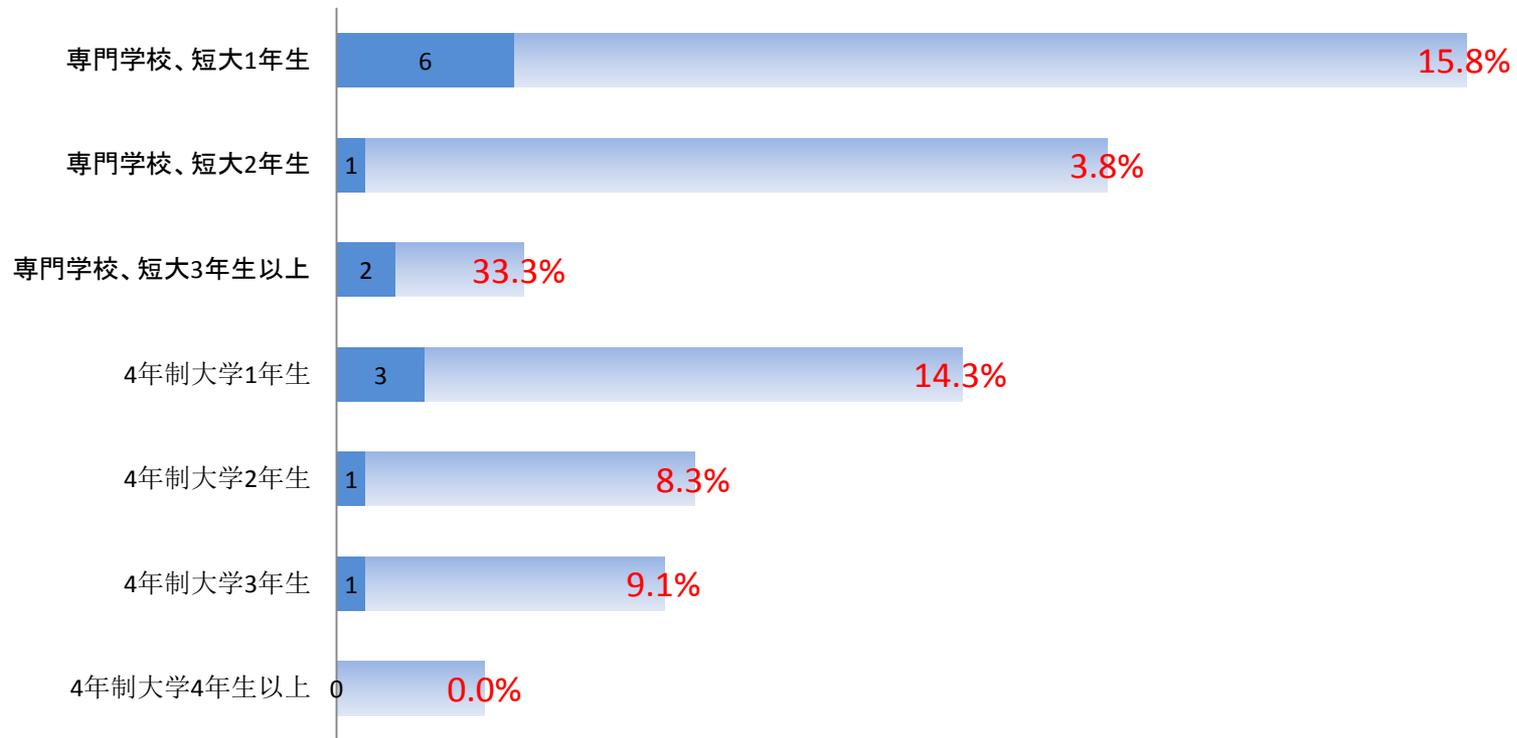
5、施設の退所後支援の状況



	徹底して実行	あまり徹底していないが実行	実行していない
退所後援助の計画を策定している	20	37	69
退所後援助専門の記録がある	37	42	51
管理職が取り組み状況を把握している	49	53	27
一定期間ごとに担当者を中心に取り組みの評価を行っている	12	40	75
退所後援助にかかる費用を施設として支出している	28	43	53

6、中退状況 <学年別の進学者数、退学者数>

■ 進学者のうち退学した者



	進学者のうち退学した者	進学者-退学者	退学率	うち、措置延長者、措置変更者	進学・進級者計
4年制大学4年生以上	0	5	0.0%	0	5
4年制大学3年生	1	10	9.1%	0	11
4年制大学2年生	1	11	8.3%	2	12
4年制大学1年生	3	18	14.3%	2	21
専門学校、短大3年生以上	2	4	33.3%	1	6
専門学校、短大2年生	1	25	3.8%	1	26
専門学校、短大1年生	6	32	15.8%	2	38

7、進学者の専攻

理系/技術系(18)		文系(31)		資格/専門学校系(67)	
理・工学部	11	福祉学部	7	保育	15
電気機械	2	人文学部	6	看護	13
農学部/農業	2	教育学部	5	介護	6
自動車・工業	2	経済学部	5	調理	4
建築	1	法学部/ 法経学部	3	美容・理容	4
自動車	2	国際関係/ 外国語学部	3	デザイン	3
		経営学部	2	栄養士、簿記、 医療事務、鍼灸	各1

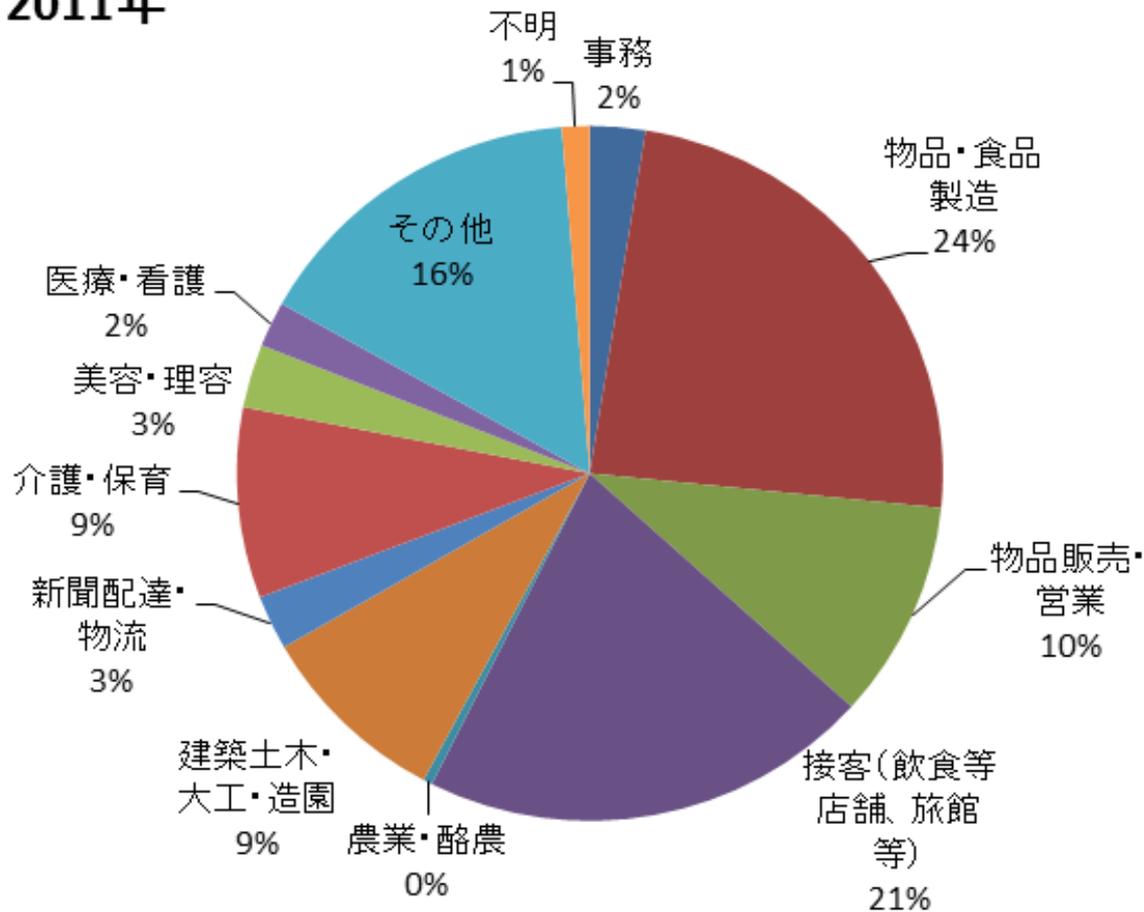
8、就職者の転職率

	雇用形態	退所時	うち、転職者	転職率	不明
2008年度	正社員	197	59	29.9%	4
	非正社員	31	21	67.7%	2
2009年度	正社員	173	54	31.2%	4
	非正社員	35	12	34.3%	1
2010年度	正社員	207	22	10.6%	2
	非正社員	34	4	11.8%	1

9、就職者の就職先

	2009	2010	2011
事務	12	7	6
物品・食品製造	65	50	57
物品販売・営業	20	15	24
接客(飲食等店舗、旅館等)	42	40	49
農業・酪農	1	3	1
建築土木・大工・造園	14	13	21
新聞配達・物流	8	3	6
介護・保育	15	21	21
美容・理容	6	8	7
医療・看護	2	6	5
その他	42	34	37
不明	4	6	3

2011年



10、自由記入より <就職に関する共通事項>

外的要因	内的要因
<ul style="list-style-type: none">・ 不景気・ 就職難・ 県内の求人が少ない。地元を離れて就職せざるを得ない（鹿児島）。・ 努力していても、親の支援なく自立して生活していくのは大変なこと。・ 寮・住み込みでないと生活できない。・ 以前は生活面までフォローし援助してくれる職親的な方がいたが、今はそうした人がいない。・ 知的・情緒的にボーダー域の人間を支援するシステム、就業先がない。・ 保証人の問題	<ul style="list-style-type: none">・ 住む場所と就労の環境変化が同時に発生するため、負担が大きい。・ 高卒の年齢で好きな仕事を見つけ、就職すること自体、ハードルが高い。・ 就職して初めてわかることも多く、がんばっても続かない場合もある。

1 1、自由記入より <アフターケア（退所後支援）の課題>

- ・ 成功している取り組みは無いに等しい。B4Sさんのお力を借りて、巣立ちプロジェクトのようなプログラム、夏休み等に模擬社会体験のような高校生向けのプログラムがあるとありがたい。
- ・ 家庭で認められて来なかった子どもたちが、自分の為に前向きに必要な努力に取り組める力をつけること
- ・ 児童の適性を見極めて就職先を探すことと、退所後の生活環境を整えること
- ・ 施設においては、児童は結局受け身であり、させられているという気持ちになっていることが多い。
- ・ 各職員の個人負担・個人任せ
- ・ **退所後の具体的な支援プログラムがない。**施設としても制度としても充実してほしい。
- ・ 子どもの自立支援において「自律」支援も必要。
- ・ 担当していた職員やFSW（注：ファミリーソーシャルワーカー）が個別に連絡を取ったり会ったりしながら離職しないよう支援している。
- ・ はじめの仕事を辞めた時、転職前、あるいは辞める前に施設に相談できるような人間関係・信頼関係を築くこと
- ・ 施設にSOSを連絡できる子どもはむしろ良い。それができない子への支援の難しさ
- ・ 障害の子の自立とその支援体制の充実。「働きくらしセンター」のような障害者の就労サポートする機関の活用
- ・ 措置の解除を理由に支援の継続性が分断されてしまう、関係性が薄れてしまうが、退所後も気軽に頼れるようなつながりを持ち続けること
- ・ 職員が辞めてしまえばつながりがなくなってしまう、個人任せになってしまうという人材の問題
- ・ どうしようもなくなる前に連絡をしてもらえるような施設の許容量の拡大
- ・ 就職前、転職日、1週間、1ヶ月とメール等での様子伺い等、頻繁に連絡をする。

12、自由記入より <子どもたちに伝えたいメッセージ>

【仕事観】

- ・ 働く意義（仕事をしなければ生きていけない、どうにもならない）、給与が労働の対価であることを知ってほしい。
- ・ 周りから認められるカッコイイ仕事だけがお金を稼ぐ術ではない。
- ・ 慣れるまでは、どんな仕事も職場も大変である。
- ・ 仮に辞めてしまうにしても、次にどう手を打つか。

【人生観】

- ・ 目先の得でなく、人生における幸せをつかんでほしい。
 - ・ 自分の希望通りにならない現実があることも受け止めてほしい。失敗した時も諦めきれない気持ちを持つ。
 - ・ 自分が周りに支えられて生きていることを忘れず、「ひと」としてどう生きるのか、自分の人生を大切にしたい。
 - ・ 人としての成長、社会人としての責任
- ・・・それでも、悩みがあれば、まず施設（職員）へ相談において

13、自由記入より <離職しやすい子としにくい子の特徴>

(回答をもとにした傾向分析)

離職しやすい	離職しにくい
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会経験が乏しい ・ 中卒者⇒ほとんど離職 ・ 高校中退者 ・ 壁にぶちあたると簡単に辞めようとする ・ アルバイトが長続きしない ・ あいさつや返事ができない ・ 仕事を甘く見ている。働くことを具体的にイメージできない。 ・ 社会自立することへ対する意識が低い ・ 忍耐力（我慢）が低い ・ 社会人としての知識が低い ・ 虐待や不適切な養育の経験 ・ 施設に対する強い反発や警戒心 ・ ボーダーで特別支援学校に行くべきところ、普通高校へ行った <ul style="list-style-type: none"> ➢ 本人の能力をこえる仕事や人間関係があった恐れ ・ 自分が何をすべきかよく理解しないまま、就職先を決めた ・ 職員はじめ、周りは正社員での就職を望むが、本人の思いがそこまで至っていなかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高卒者 ・ 目的意識を持って高校生活を送れた経験を有している ・ 基礎学力が定着している ・ 資格取得者（工業高校卒等） ・ 特別支援学校卒業生 ・ 部活動を続ける ・ 遅刻や欠席せず登校する ・ アルバイト／職場実習の経験者 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 社会人経験、就労体験になる ➢ 職場での人間関係の築き方を学ぶ ➢ 自分のやりたいことを見つける ・ 社会性、対人関係スキルがある ・ 一般常識がある ・ 男性が比較的多い ・ 就職先について、事前にしっかり調査 ・ 本人が他人（施設職員含む）に支援を求められること <ul style="list-style-type: none"> ➢ そういう子は小さなことでもすごく相談しており、グチを言って職員がなぐさめて励まして乗り越えられる。 ➢ 施設との関係を保ちながら失敗した場合、子どもが施設を頼って支援がうまくいったときはなんとかなる。

14、自由記入より <離職しやすい子としにくい子の環境要因>

リービングケア（退所前の支援）

離職しやすい	離職しにくい
<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設在籍中に本人が抱える問題を解決しないまま退所 ・ 自活する力を施設で身につけることができないまま退所 ・ 基本的な社会生活の訓練が不十分 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就職（自立）に向け、本人の意思を確認し、色々な選択肢を探る。 ・ 社会人となる前に学ばなければならないこと必要な知識や一般常識等の指導 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 簡単な料理、掃除、ゴミ分別、銀行での入出金、交通機関の利用、水道光熱費の契約や支払い、転出・転入、転居、冠婚葬祭、避妊・性感染症予防、怪我・病気の処置等 ・ 在園しながらアパートを借り、そこでの生活を支援しながら段階的に自立準備。その間の家賃などはバイトで貯めさせ、定額の生活と（食費含む）を支給し、4月からは完全移行とする。 ・ 退所・就職に向けての意識付け、フォロー ・ 在園時に、ルールを守らせるだけではなく、自ら考え失敗しその後一緒に振り返りを行い、どのように社会につなげていくかを丁寧に教える ・ それまでの自分の生き立ちと向き合うこと、その状況を受け止め、自分で選択する形へ寄り添う。日々の暮らしの中で、親でない他人である職員が子どもたちの中にどれだけ大きな存在になるかが最も大切で、その前提があってこそこのアフターケア。

15、自由記入より <離職しやすい子としにくい子の環境要因>

アフターケア（退所後の支援）

離職しやすい	離職しにくい
<ul style="list-style-type: none"> ・ 各担当者が個別対応、相談にのるケースがほとんど。不十分。 ・ 職員が仕事や近況など、電話や直接会うかたちで相談にのっているが、結果として成功しているとも言い難い。 ・ 時間の確保が困難、断片的支援になりがち。 ・ 県外就職で、すぐに駆けつけることが出来ない。 ・ 自治体の就労支援事業を活用し、連携しているが、状況を把握した時点で、既に離職を避けられない状況になっている（北海道）。 ・ 退職しても本人が連絡しない。親、高校からの情報で知った。 ・ 知的能力に問題がある者のフォローは相当困難。 ・ 職業選択、就業後にきめ細かく支援する人材・スキルが施設側にはない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 常に相談できる人（相談しやすい人）が近くにいること <ul style="list-style-type: none"> ➢ はじめの3ヶ月のフォローの重要性 ➢ 施設の心理職、担当していた職員が相談相手となる。（職員個人のボランティアになってしまっている面も） ➢ 電話・メールで日常的なやりとり、随時居住先や職場を訪問 ➢ 仕事をしていると辞めたくなくなってしまうことはある。それを相談し、アドバイスできる環境を作っておく ➢ 可能であれば、施設の近くに住居を構える。 ➢ 初任給が出るまでは夕食は施設で用意し、少しでも仕事後の負担を減らすと共に、現状を施設側が把握する（愛知） ➢ 半年程度、措置で職場に通う。 ・ 同窓会組織や定期的に集まる機会を設ける <ul style="list-style-type: none"> ➢ 卒園生が自由に出入りをして来園しやすい雰囲気を保つ。 ➢ 引越の際に連絡をくれるようお願いを込め、退所者に年2回の小包、年4回のふる里だよりを送付。 ➢ 年に4回はOBが寄れる機会を作っている（球技大会、OBによる園の清掃等）。 ➢ 「成人を祝う会」を開催 ➢ 退所児童の会を結成・・・施設行事への協力を依頼 ➢ 「卒園生同窓会の日」を制定している ・ 本人、児相、高校、施設の連携 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 就職先上司と施設との連携 ➢ 職場トラブルに職員が出向く。 ➢ 県作成のリービングケア・マニュアルがある。

16、自由記入より <離職しやすい子としにくい子の環境要因>

職場の環境要因

離職しやすい	離職しにくい
<ul style="list-style-type: none">・ 住み込みもしくは社員寮があるとの理由だけで就職<ul style="list-style-type: none">➢ 地元を離れ、都会での就労となることが多い➢ 環境の変化に適応できない➢ 友達や相談相手が身近にいない・ そもそも希望の就職先についていない。・ 長時間労働、厳しい労働環境・ 労働条件が悪い。・ ホテル系（寮完備、仕事はまあまあ）<ul style="list-style-type: none">➢ 職場でコミュニケーションがとりにくい。・ 介護職<ul style="list-style-type: none">➢ 仕事がきつい。休みが取りにくい。・ パート（意思に関わらず雇用を切られる恐れ）	<ul style="list-style-type: none">・ 正社員・ 頑張って公務員（警官・学校事務・自衛隊）になった者・ 遠方でなく県内に就職<ul style="list-style-type: none">➢ 相談に寄ったり、何かのついでに施設に寄ることが容易・ グループホーム入所者<ul style="list-style-type: none">➢ 常に誰かに見守られている・ 面倒見が良い会社に就職できた者・ 特別支援学校を卒業し、就労援助を受けて就職した者・ 知的障がい関係で就労した退所者

17、自由記入より <離職する理由>

◆理想と現実とのギャップ

- ・ 人間関係のつまずきと、今よりもっとよい仕事（楽な）があるのではないかという幻想
- ・ 業務の理解不足
- ・ 希望と実際の就労とのミスマッチ
- ・ 仕事に対する責任感が薄い。
- ・ 勤続年数を重ねることによる責任の増大
 - 自信のない者は押し潰される。
- ・ 「働く」ことの大変さや喜びを理解していない（個人の課題）。

◆施設と社会の厳しさとのギャップ

- ・ 「独り」に耐えられない
 - 施設の生活が長いと一人暮らしに慣れるまでが苦痛
 - 知らない土地で働くことへの寂しさ
- ・ 基本的な生活習慣の全てを自分ですることができない。
- ・ 就職当初は真面目に仕事に取り組むが、慣れてくると仕事と私生活のけじめができず、生活が乱れる。
- ・ 生活場面での援助者がいない。生活・就労の両立が困難

◆対人関係／コミュニケーション能力の問題

- ・ 大人への不信感
- ・ 職場での人間関係のトラブル（上司等）
- ・ 面倒を見てくれる上司、ジョブコーチの不在
- ・ 住み込み等、蜜な人間関係下の問題
- ・ 職場になじめない／人間関係を築けない
- ・ 社会性、社会への適応能力の欠如
- ・ 他者との距離感、感情の交流、自身の感情の処理
- ・ 年齢的な幼さ
- ・ 言葉づかいの悪さ
- ・ 叱られ下手／怒鳴られる
- ・ 自尊感情／自己肯定感の低さ
- ・ 自己中心的

◆その他

- ・ 妊娠（結婚）出産
- ・ 異性関係（携帯等で知り合った異性等の問題を含む）
- ・ 金銭問題（たとえ少額でも）
- ・ 体調不良

18、自由記入より <離職の具体例>

- ・就職後約1週間で離職（仕事内容がきつすぎると父親が採用先の飲食店へ苦情を言いに行き、それっきり仕事に行かせなかった）。施設には、1～2ヶ月後に本人より連絡あり。
- ・（女子）ホテル従業員。宿泊者のあらゆるお世話や朝食バイキングの準備に追われ、元々あったアトピーがひどくなり、退職。以後非常勤で転々とする。
- ・（男子）寿司屋。時間的に最初の約束とは大幅に違うこと、どなられることが多いこと等で退職。兄のアパートに転がり込む。現在は自分で探した警備の仕事についている。
- ・病院の寮に入り、看護学校に通っている卒園生は、高校卒業と同時に自活、仕事、学業の両立に戸惑い、1年次を終了できず留年している。しかし、2年目は生活も落ち着き、成績も伸び、正看の資格取得への意欲も見られる。支援プログラムはないが、看護学校の先生、勤務先の師長さんと連絡を取り合っていたことで、本児を支援し中退を回避できたのではないかと思う。また、もし一年目にもう少し違った支援ができていたら留年せずに済んだかもしれないと、反省もある。